

# 症状からの重篤副作用疾患別対応マニュアルの検索ガイド

## ：神経領域

日本神経学会マニュアル作成委員会（2018年）

桑原 聡            千葉大学神経内科  
坪井 義夫        福岡大学神経内科  
小池 春樹        名古屋大学神経内科

参考（各論項目）

運動失調

急性散在性脳脊髄炎

ギラン・バレー症候群

痙攣・てんかん

ジスキネジア

小児の急性脳症

頭痛

白質脳症

末梢神経障害

無菌性髄膜炎

薬剤性パーキンソニズム

## A. 患者の皆様へ

### 1. 神経系副作用の概要

神経系は中枢神経（脳・脊髄）と末梢神経（運動神経、感覚神経、自律神経）から構成されており、ヒトが考えて行動する上での多くの機能を担っています。それぞれの部位が障害されると、それに応じた症状が起こるために、神経系の副作用は様々な症状を呈します（表を参照）。

医薬品を服用している時に、これらの症状がみられた場合には、放置せずに、ただちに医師・薬剤師に相談ください。神経系が障害されると、他の臓器よりも後遺症が残ることが多いことから早期に異常を発見することが重要です。

表：神経系の副作用で、多く見られる症状

	多く見られる症状
中枢神経（脳・脊髄）の症状	「意識障害（ボーっとしている、言動がおかしい）」、「パーキンソン症状（動きが遅くなる、表情がなくなる）」など
末梢神経の症状	運動障害 「手や足の力が入らない」、「物をよく落とす」、「歩行やかけ足がうまくできない」、「立ち上がりがうまくできない」、「足先が垂れてつまずきやすい」など 感覚障害 手や足が「ピリピリとしびれる」、「ジンジンと痛む」、「感覚がなくなる」など 自律神経障害 「立ちくらみ」、「尿が出にくい」、「ひどい便秘」、「口が渇く」など

## 2. 早期発見と早期対応のポイント

副作用は、必ず起こるものではありませんが、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。

神経系の副作用は、原因と考えられる医薬品を使用して数時間以内に起こることもありますし、数か月以上たってから起こることもあります。神経系の副作用を起こしやすい医薬品はある程度決まっていますので、処方された時点で医師・薬剤師の説明をよく聞いてください。

神経系の副作用については、表に示すマニュアルが作成され、患者さんや患者の家族の方に知ってほしい副作用の概要、初期症状、早期発見・早期対応のポイントをできるだけわかりやすい言葉で記載しています。より安全な治療を行う上でも、それらのマニュアルも参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

表 神経系の重篤副作用疾患別副作用マニュアルの一覧

副作用の初期症状など	副作用の名称
「顔や手足の筋肉がぴくつく」 「一時的にボーっとして意識が薄れる」 「手足の筋肉が硬直しガクガクと震える」	痙攣・てんかん
「動作が遅くなった」 「声が小さくなった」 「表情が少なくなった」 「歩き方がふらふらする」 「歩幅がせまくなった(小刻み歩行)」 「一歩目が出ない」 「手が震ふるえる」 「止まれず走り出すことがある」 「手足が固い」	薬剤性パーキンソニズム
「繰り返し唇をすぼめる」 「舌を左右に動かす」 「口をもぐもぐさせる」 「口を突き出す」 「歯を食いしばる」 「目を閉じるとなかなか開かずしわを寄せている」 「勝手に手が動いてしまう」 「足が動いてしまって歩きにくい」 「手に力が入って抜けにくい」 「足が突っ張って歩きにくい」	ジスキネジア
ワクチン接種後(主に接種1～4週後)に、次のような症状がみられる場合があります	急性散在性脳脊髄炎

す。 「頭痛」 <sub>レ</sub> 、「発熱」 <sub>レ</sub> 、「嘔吐」、「意識が混濁する」 <sub>レ</sub> 、「目が見えにくい」 <sub>レ</sub> 、「手足が動きにくい」 <sub>レ</sub> 、「歩きにくい」 <sub>レ</sub> 、「感覚が鈍い」など	
乳幼児で、 「けいれんが5分以上止まらない」 <sub>レ</sub> 、「けいれんが止まったあと意識が無く、ずっとぐったりしている」 <sub>レ</sub> 、「けいれんが起きなくても、いつもと違った意味不明な言動があったり、ぐったりしている」	小児の急性脳症
「歩行時のふらつき」 <sub>レ</sub> 、「口のもつれ」 <sub>レ</sub> 、「物忘れ」 <sub>レ</sub> 、「動作が遅くなる」など	白質脳症
「手足の動きがぎこちない」 <sub>レ</sub> 、「箸が上手く使えなくなった」 <sub>レ</sub> 、「ろれつがまわらない」 <sub>レ</sub> 、「ふらつく」 <sub>レ</sub> 、「まっすぐに歩けない」	運動失調
「発熱(40 ぐらいの高熱)」 <sub>レ</sub> 、「頭痛」 <sub>レ</sub> 、「気分が悪い」 <sub>レ</sub> 、「吐き気」 <sub>レ</sub> 、「うなじがこわばり固くなって首を前に曲げにくい」 <sub>レ</sub> 、「意識が薄れる」など	無菌性髄膜炎
「手や足がピリピリとしびれる」 <sub>レ</sub> 、「手や足がジンジンと痛む」 <sub>レ</sub> 、「手や足の感覚がなくなる」 <sub>レ</sub> 、「手や足に力が入らない」 <sub>レ</sub> 、「物がつかみづらい」 <sub>レ</sub> 、「歩行時につまずくことが多い」 <sub>レ</sub> 、「イスから立ち上がれない」 <sub>レ</sub> 、「階段を昇れない」など	末梢神経障害
「両側の手や足に力が入らない」 <sub>レ</sub> 、「歩行時につまずく」 <sub>レ</sub> 、「階段を昇れない」 <sub>レ</sub> 、「物がつかみづらい」 <sub>レ</sub> 、「手や足の感覚が鈍くなる」 <sub>レ</sub> 、「顔の筋肉がまひする」 <sub>レ</sub> 、「食べ物がのみ込みにくい」 <sub>レ</sub> 、「呼吸が苦しい」など	ギラン・バレー症候群
頭痛	頭痛

各副作用の詳しい情報については、副作用の名称や初期症状などを参考に、該当するマニュアルを選び、ご確認ください。